

多高通信

第137号 平成28年12月22日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

栗駒ジオパーク巡検!

11月3日、ジオパークの栗駒
国立公園をフィールドとして、栗
駒巡検が行われました。巡検で
訪れた祭時(まつるべ)大橋は、
平成20年6月14日に起きた岩
手・宮城内陸地震(マグニチュード
7.2)の震源地に近く、地震の影響
により橋が倒壊しました。今回、
東北大学の西弘嗣教授、高嶋礼詩准教授のご指導
の下、科学部、山岳部および2学年有志が地形の成
り立ちと災害について学習を深めました。荒砥沢
ム周辺の大規模な山体崩壊を目の当たりにし、災
害発生メカニズムについて多くのことを学びました。
■山岳部 高橋弘基(2年7組 高崎中出身)
栗駒巡検では、私たちの身近にあるが深くは見ていな
い「地層」というものに焦点を当てて学ぶことができまし
た。栗駒周辺の地層と自分と身近な場所の地層を比較
することで、将来、地震への備えなど防災の面で少しで
も役に立てられればと思います。



倒壊した祭時大橋



県高校生徒理科研究発表会

11月3日、石巻専修大学を会場に、宮城県高等
学校生徒理科研究発表会が行われ、科学部3題、

災害科学科2題の発表を行
いました。物理、化学、生物、地
学の各分野に分かれてのポス
ターセッションで、審査員の先
生方や多くの聴衆の方に研究
成果を発表しました。災害科
学科生物班の研究は1次審査
を通過し、2次審査へと進み、
見事表彰されました。来年度
は全国総文祭が宮城県で開
催されます。今回の発表会は、
総文祭自然科学部門のプレ大
会の要素もあり、大変盛り上
がりました。



サイエンスアゴラ2016

震災から5年「いのちを守る」コミュニティ

11月6日、東京・有明にある日本科学未来館で
開かれた「震災から5年「いのちを守る」コミュニ
ティ」で口頭発表を行いました。

サイエンスアゴラは、「あらゆる人に開かれた科学
と社会をつなぐ広場」の総称であり、日本最大級の
科学の祭典として日本科学未来館を初めとした6
会場において開かれました。
会場において開かれました。
この中の科学技術を巡るさ
まざまなテーマについて、独
自の切り口での議論を行う
「キーノートセッション」に参
加しました。
今回のテーマは、阪神・淡
路大震災、東日本大震災、熊
本地震における、被災地での
支援、コミュニティ再生や
防災教育など、さまざまな視点で取り組まれてい
る「いのちを守る」活動についてでした。その1つとし
て多賀城高校の活動を紹介しました。参加者から
は、どのように東日本大震災の思いを伝えていくの
か、防災・減災活動を行うことで、自分や相手がど
のように変化したかなど、の話題も出されました。



■小野寺杏(2年2組 利府西中出身)
サイエンスアゴラは、科学に関するブースや、体験コー
ナーが沢山出展されており、とても一日では回りきれな



いほどの規模でした。身近に科学
を感じることでできる展示が沢
山あり、そのうちのいくつかの実
験に参加しました。
そのような中で私が参加したキ
ーノートセッションは、大学の先
生、企業の方、そして私たちが、
それぞれの防災・減災に対する取
り組みを報告するものでした。大
学の先生方の講話を直接聞くこ
とができ、阪神大震災以降の関西での取り組みや、熊本
での大学生ボランティアの活躍、防災におけるマスコミの
働き、企業が地域の子どもたちに防災学習の場を提供
している様子など、私がいままで知らなかった活動が
次々に報告されました。特に中学生が体験しながら防
災・減災を学ぶ試みについては、私たちが地域の小学校
や中学校と合同で取り組む地域防災のヒントになりま
した。私たちの活動についても、大学の先生方から励ま
しの言葉やアドバイスをいただき、これからは活動を発
展継続していく必要性を改めて感じました。

多賀城総合防災訓練に参加しました

11月6日、多賀城
市総合防災訓練が実
施され、本校からも防
災委員が参加しまし
た。本校の訓練内容は、
SNSのツイッターを
使った「災害情報提供
訓練」でした。



スマートフォンで被害状況などを送信する訓練です。

自衛隊の訓練を間近で見学!



8時30分に「宮城県沖を震源とするマグニチ
ュード9.0、多賀城市震度6強」の想定地震が防災、防
災委員のメンバーが国道45号線で被災し、津波の
心配から歩道橋上に避難しました。そこから「津波
襲来、歩道橋の上に負
傷者と避難しています」
など様々な想定で災
害情報を写真と一緒
に送信。その後、「末の
松山」や砂押川の橋の
上など移動しながら
発信を続けました。今
回の訓練では、前回使

日本船舶海洋工学会主催 海洋教育フォーラム

11月12日、東北工業大学で行われた日本船舶
海洋工学会主催のフォーラムで本校の活動の様子
を報告しました。

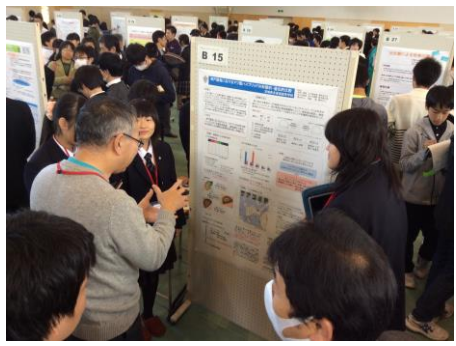
このフォーラムは「海」をキーワードに広く市民に
対していろいろな活動を知ってもらおう趣旨で開かれ
ているものです。本校からはESDの取り組みを中
心に、生徒からは学習の様子
や生徒会活動についての報告
を行いました。会場からは大
震災の伝承活動についてや現
在の学習と将来自分が果たし
たい役割などについて質問が
ありました。



その他に前岩沼市長である
井口経明氏から「千年希望の
丘」の取組、三井造船の今北明彦氏からは福島沖で
実験が行われている「浮体洋上風力発電」の取組、
東京大学生産技術研究所の北澤大輔氏からは「海
洋食料生産」の取組についての報告がありました。

■大久保理音
(1年7組 東京都江戸川区立鹿本中出身)
今回このフォーラムに参加して多くのことを学び、よい
刺激を受けることができました。自分たちの行っている
活動を伝えることも私たちの使命であり、大震災から
の復興と伝承であることを再認識しました。
講演の中で興味深かったのは、洋上風力発電です。風
力発電といえば風の強い海岸線に立てられるイメージが
ありましたが、その発電効率の良さや環境への影響を考
えると洋上という選択肢は素晴らしいアイデアだと思い
ました。これらの設置コストが安価になり、さらに技術
が発展すれば良いと考えました。
このフォーラムで学んだことをこれからの学習に活か
していきたいと思います。

みやぎサイエンスフェスタ



11月14日、宮城県仙台第三高等学校を会場に、「みやぎサイエンスフェスタ」が開催されました。県内の小中高大学生が参加する自然科学分野の研究発表会で、本校からは科学部6名と災害科学科6名が参加しました。他の学校の発表などに多くの刺激を受け、本校の生徒も堂々と発表しました。当日は審査委員の大学の先生方をはじめ、千人以上の来場者がありました。そのような中、災害科学科化学班の取り組んだ研究が優秀賞を受賞しました。

■鈴木勇汰郎(1年7組 矢本二中出身)

私たち災害科学科化学班の3名は、7月に行った浦戸巡検で土壌サンプルを採取し、「土壌中のアンモニアウムイオンおよび硝酸イオンの濃度の測定」という研究を行いました。研究の結果をポスターにまとめ、今回のサイエンスフェスタで発表し、2位相当である優秀賞をいただきました。事前に石巻専修大学で同様の発表をした際に、大学の先生方から課題やアドバイスを頂き、それを改善できたことが今回の結果につながったと思います。今後の研究や発表もさらに良いものにするために今回の経験を生かしていきたいと思っています。

オリンピッククデー・フェスタ

ミ多賀城

11月19日、公益財団法人・日本オリンピック委員会主催で、オリンピック(オリンピック出場経験選手)との交流により東日本大震災の被災地を元気づけようと実施されている東日本大震災復興支援事業「がんばれ!ニッポン!」プロジェクト「オリンピッククデー・フェスタ」が多賀城で開催されました。オリンピックが小学生と



一緒に玉入れなどのスポーツやレクリエーションを行った後、「高校生とオリンピックによる被災地視察」が実施されました。災害科学科、ボランティア同好会、陸上部の生徒らとオリンピックとの交流を持ち、津波浸水域を巡る「まち歩き」を生徒の案内で行い、6名のオリンピックは、真剣に生徒らの話を聞いていました。

北京オリンピック男子バレーボール出場の齋藤信治さんから、「皆さんから聞いた震災体験をたくさんの人に伝えていきたい」と、ロンドンオリンピック女子卓球団体銀メダリストの平野早矢香さんから、「震災で経験したことをたくさんの人に伝えてください」と、お話をいただきました。



津波痕跡の説明を受ける齋藤信治さん

交流会の最後に、生徒を代表して1年1組の柴田

秀人君が、6名のオリンピックから記念の色紙を受け取りました。

■柴田秀人(1年1組 利府西中出身)

最初に行ったディスカッションでは、私たちとオリンピックの方々で震災の時に見たことや思ったことを話し合い、オリンピックの震災に対する思いを聞くことができました。その後のまち歩きでは、タブレットとまち歩きのための手作り地図を使ってオリンピックを案内しました。オリンピックは私たちに質問をしながら当時の状況を理解してくれました。

これを機に、オリンピックの方々も震災のことをいろいろな場面で伝えていただければと思います。

WATALIS 特別授業

日本の服飾文化とリユースの実際

12月1日、『くらしと安全A』において、亘理町に拠点を置く一般社団法人 WATALIS さんの特別授業が、1年生81名を対象に行われました。古来より行われてきた着物文化のリユースの観点からの製法技術の紹介と簡単な実習を行い、震災からの復興を総合的に考えるものです。

初めに、代表の引地恵さんから、亘理町に伝わる、端切れ等を用いた「ふぐろ」に一升の米を入れてお礼として感謝の気持ちを表す文化に興味を持った話がされました。貴重な服地に貴重な食料を入れ、

さらに無形の感謝の気持ちを入れる文化の奥深さと素晴らしさを再認したことが活動の原点であることが話されました。

続いて、実習として端切れを用いたキーホルダー作成の実習を行いました。理事の橋元あゆみさんから「きもの」の端切れについての紹介と、文様に込められた意味の説明があり、その後、端切れを用いて実際にキーホルダーを作成しました。

最後にまとめとして再び引地さんから、復興のためには、多種多様な課題を解決しなければいけない状況となったことや、その解決のための工夫点についての話がありました。

■直井友香

(1年1組 高砂中出身)

昔からの伝統的な慣習はきちんとした意味があつて続けられてきたものであり、新しいものに囲まれている今こそ、伝統的な慣習から学ぶことがたくさんあるのだということ、今回の特別授業で改めて感じました。また、辛い状況の中でも、様々な人と出会い、話を聞いていくうちに、新しい発見を得ることができるのだと感じました。

2学年 修学旅行 関西

12月4日からの3泊4日、2学年が修学旅行に行ってきました。

1日目は金閣寺と清水寺の見学、2日目はクラス別研修、3日目は京都市内の班別研修、4日目は二条城と三十三間堂の見学を行いました。1日目の夕方から夜にかけては雨となっていました。2日目は降は晴天にも恵まれ、高校生活最大の行事を皆思い思いに楽しんでいました。

■修学旅行実行委員長

2年2組 赤間楓果(高崎中出身)

今回の修学旅行では、クラスごとや班ごとに事前学習を何度も行い、学びの多い旅行となりました。また、3日目の夜にはホテルで舞妓さんの舞踊鑑賞会があり、初めて目の前で舞踊を見ることができました。とても美



しくて品のある姿に魅了された人がたくさんいたと思います。

個人的には、4日目の最後に訪れた三十三間堂の印象がとても強く残っています。千体の千手観音像が125メートルもある長大な御堂内に立つ姿は何とも言えない美しさでした。一体一体のお顔も異なり、見ていて飽きないとは思いました。このことかという程度でした。



この4日間を通して改めて感じた、この学年やクラスの良さというものを、今後にも生かしていきたいと思っています。

東京大学

海洋教育促進拠点としての連携に関する協定

12月7日、本校は東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターと「海洋教育促進拠点としての連携に関する協定」を締結しました。



協定では、海洋教育の実施に関わる事項や普及に関わる事項について、それぞれの専門性を活かして協力することを申し合わせました。本校は今後、東京大学海洋アライアンスの有する人的な教育資源や研修などについて協力をいただくことが可能になりました。

また、現在センターは本校を含め、全国で20カ所の教育委員会や学校、社会教育施設等と協定を結んでおり、これらが集うセンター主催の各種イベントへの参加や、交流も期待できます。

12月2日、熊本地震に対する義援金贈呈のお礼として、熊本からくまモン隊が来てくれました。感謝の気持ちとして、くまモンから色紙をもらいました。また来てね!

